Speciality for Customer

株式会社プロシップ （証券コード：3763　東証プライム市場）

2027年3月期 第2四半期 決算説明資料

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Index
目次

株式会社プロシップ
2027年3月期 第2四半期決算説明資料

01　2027年3月期 第2四半期決算 連結業績　p.3
02　2027年3月期 連結業績予想　p.11
03　新リース会計基準について　p.17
04　プロシップについて　p.23
05　TEAM構想　p.35
06　ＡＩ戦略　p.39
07　ハイブリッドモデル　p.42

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

01 ｜ 2027年3月期 第2四半期 連結業績

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Consolidated Financial Results for the Second Quarter of the Fiscal Year Ending March 2027

2027年3月期 第2四半期 連結業績

	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比
売上高	3,896 百万円	**5,239** 百万円	+ 34.5 %
営業利益	1,404 百万円	**1,985** 百万円	+ 41.4 %
経常利益	1,451 百万円	**2,080** 百万円	+ 43.4 %
（経常利益率）	（37.2 %）	（**39.7** %）	–
親会社株主に帰属する 当期純利益	998 百万円	**1,428** 百万円	+ 43.1 %

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Financial Highlights for the Second Quarter of Fiscal Year Ending March 2027

2027年3月期 第2四半期 決算ハイライト

中期経営計画 「Be Hybrid 2028」は「構築期」を終え、「拡張期」となる3年目に入り、新リース会計基準対応需要の本格化を背景に売上高・利益・受注高が堅調に推移し、すべての指標で前年同期を上回る成長

売上高

5,239 百万円

前年同期比 ＋**34.5** %

過去最高

■ **新リース会計需要の本格化**
新リース会計基準対応需要の本格化により関連案件が大きく増加

経常利益

2,080 百万円

前年同期比 ＋**43.4** %

過去最高

■ **生産性・品質の向上**
新リース会計基準対応需要の拡大を見据えた全社的な生産性向上および品質強化の取り組みで成果

受注残高

6,547 百万円

前年同期比 ＋**13.5** %

前年同期比プラス

■ **SaaSソリューション「ProPlus＋」**
既存顧客からの新リース会計基準対応案件の受注が堅調に推移したことに加え、「ProPlus＋」の本格展開に伴い、新規顧客からの受注獲得も進展

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Breakdown of net sales

売上高の内訳

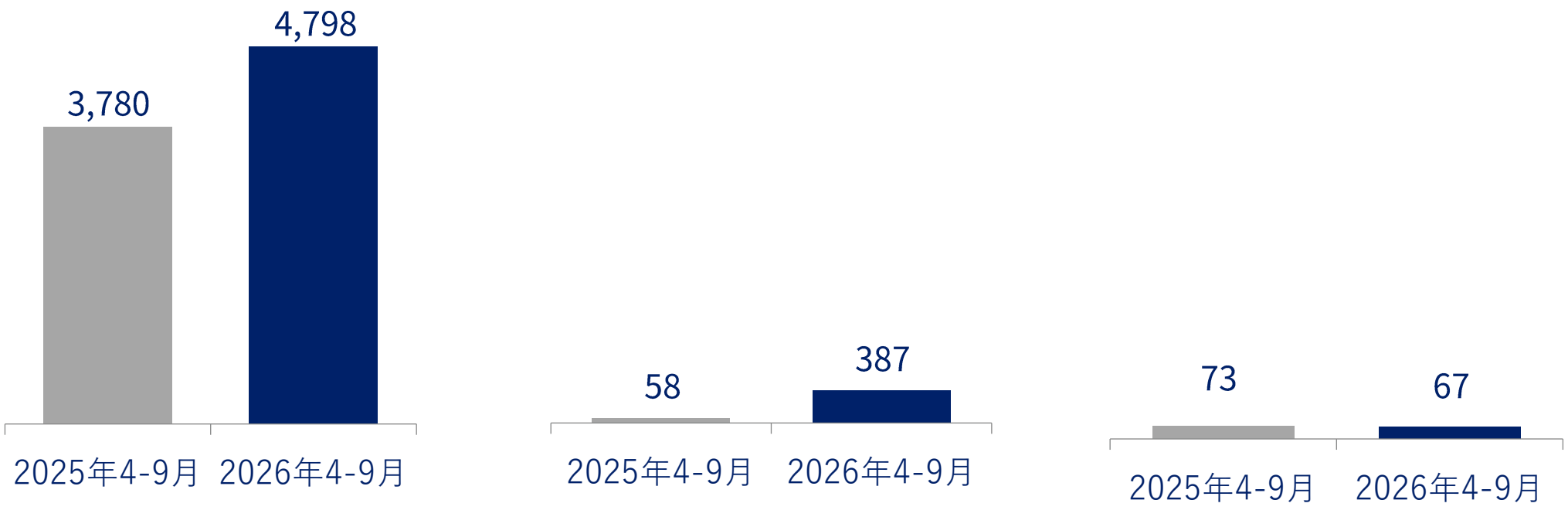
※ 各事業の売上高は事業間取引消去前の値のため、合計が連結売上高と一致しないことがあります

■ ソリューション事業　：　前四半期からの高い案件密度を維持できたことにより26.9%増加

■ SaaS事業　：　SaaSソリューション「ProPlus＋」の本格展開により、新リース会計対応需要を取り込み 566.5%増加

（単位：百万円）

ソリューション事業 前年同期比 ＋ 26.9%	SaaS事業 前年同期比 ＋ 566.5 %	その他 前年同期比 ▲ 7.9 %



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

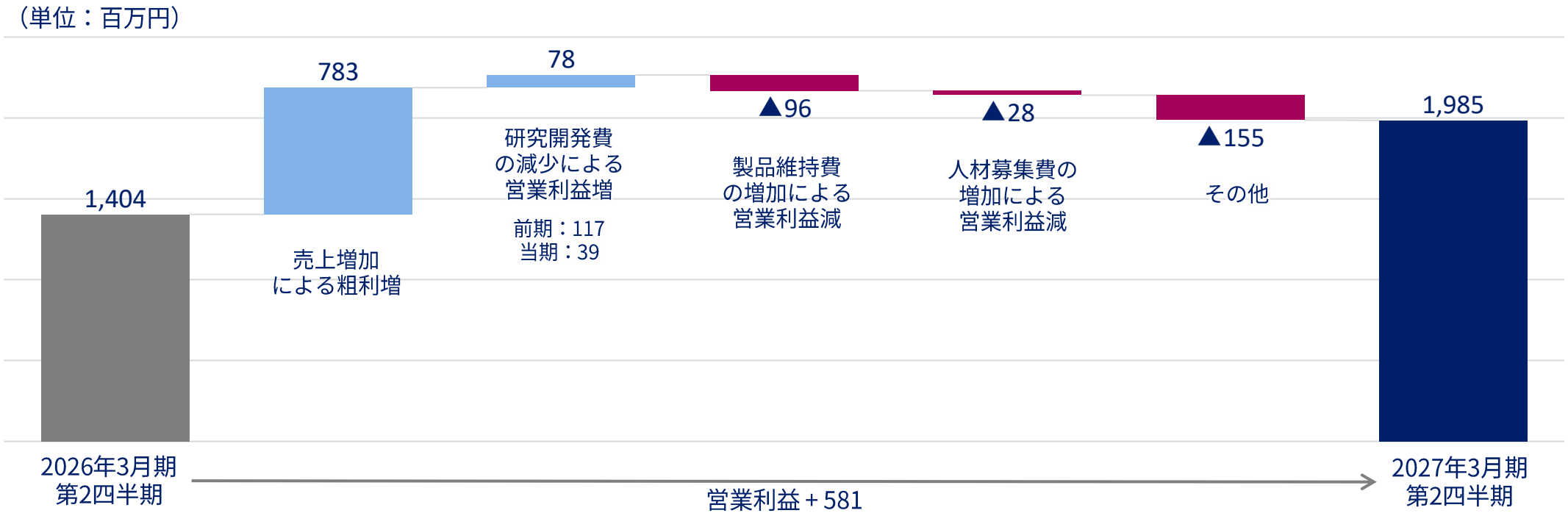
Contributing factors of increase in operating profit

営業利益の増加要因

※ 表記は百万円未満切り捨てのため、差額が一致しない場合があります

営業利益は前年同期比 581百万円増加、主な内訳は以下の通り

- ■ 売上の増加による売上総利益の増加　（ 前年同期比 ＋ 783 百万円 ）
- ■ 研究開発費（販管費）の減少による営業利益の増加　（ 前年同期比 ＋ 78 百万円 ）
- ■ 製品維持費（販管費）の増加による営業利益の減少　（ 前年同期比 ▲ 96 百万円 ）
- ■ 人材募集費の増加による営業利益の減少　（ 前年同期比 ▲ 28 百万円 ）



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Orders received and order backlog

受注高・受注残高

■ パッケージ / SaaS　：　新規・既存ともに新リース会計対応案件の受注が堅調に推移したことで、受注高・受注残高ともに前年同期比プラス

■ 保　　守　　：　受注高・受注残高の前年同期比マイナスは、保守契約更新のオペレーションサイクルの変更によるもので、第3四半期以降の保守売上高の水準には影響なし

2027年3月期 第2四半期				
品目	受注高	前年同期比	受注残高	前年同期比
パッケージ	3,537 百万円	+ 49.3 %	2,920百万円	+ 4.1 %
保守	845 百万円	▲ 33.8 %	2,800 百万円	▲2.5 %
SaaS	761 百万円	+ 2,936.2 %	756 百万円	+ 2,176.5 %
その他	53 百万円	▲ 18.6 %	69 百万円	+ 29.9 %
合計	5,197 百万円	+ 39.1 %	6,547 百万円	+ 13.5 %

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Hybrid Model

ハイブリッドモデル

ソリューション事業の着実な推進によって、SaaS事業への先行投資を上回る収益を確保
SaaSソリューション「ProPlus＋」の本格展開で、新リース会計の事業機会をとらえ、成長を加速

ソリューション事業　（パッケージモデル）

■ **売上高**

4,798 百万円（前年同期比＋26.9％）

■ **保守売上高**

1,480 百万円（前年同期比＋18.0％）

■ **社会インフラ**

新リース会計を機に新たに **2** 案件を獲得

（第2四半期は商談が進展するも獲得実績はなし）

SaaS事業　（SaaSモデル）

■ **売上高**

387 百万円　（前年同期比＋566.5％）

■ **ARR**

1,165 百万円（前四半期比＋68.6％）

■ **契約社数**

204 社　（前四半期比＋87.1％）

■ **導入企業数**

1,879 社　（前四半期比＋57.4%）

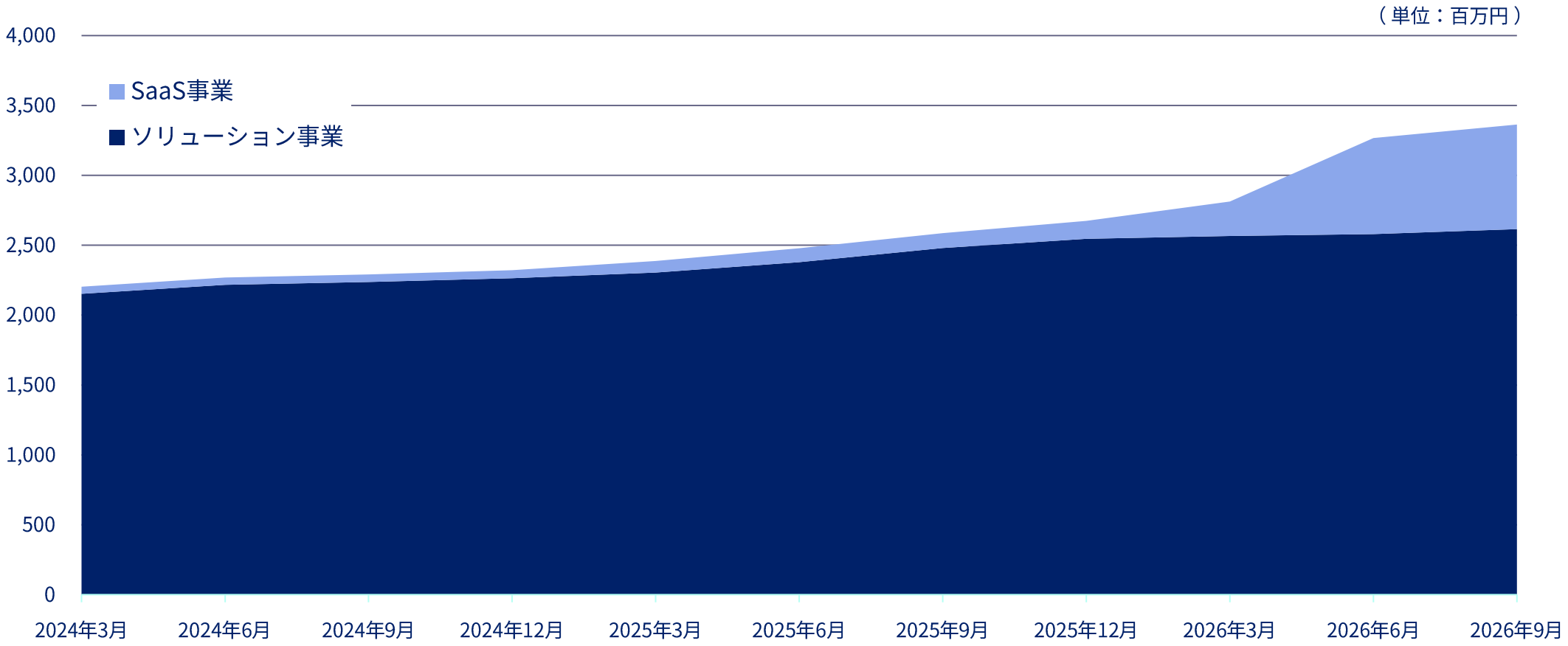
Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Trend in stock sales

ストック売上の推移

ストック売上 3,364百万円、前年同期比 30.0%増

ストック売上とは、一時的な売上を除く、継続的に積み上がっていく安定した収益源となる売上
当社では、ソリューション事業の年間保守料、SaaS事業の年間利用料が該当、以下のグラフはその推移を示したもの
ハイブリッドモデルの展開により、ストック売上の更なる強化を図る



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

02 ｜ 2027年3月期 連結業績予想

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Forecast of results for FY2027 (ending March 31)

2027年3月期 通期業績予想

	2026年3月期	2027年3月期	前期比
売上高	8,374 百万円	**10,000** 百万円	+ 19.4 %
営業利益	2,925 百万円	**3,250** 百万円	+ 11.1 %
経常利益	3,074 百万円	**3,350** 百万円	+ 9.0 %
（経常利益率）	（ 36.7 % ）	（ **33.5** % ）	–
親会社株主に帰属する当期純利益	2,224 百万円	**2,350** 百万円	+ 5.7 %

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Forecast of results for FY2027 (ending March 31)

2027年3月期 通期業績予想

通期業績予想に変更なし（下期の案件進捗や原価動向を精査した上で、必要に応じて見直してまいります）
通期業績は堅調な推移を見込みながらも、一部の保守契約に伴う無償バージョンアップ対応、製品開発・DX・人財採用等への積極投資、新リース会計対応案件の集中による一時的な生産性の低下リスクを見込む

売上高

10,000 百万円

進捗率 **52.4** %

過去最高

■ **新リース会計対応需要の取り込み**
既存ProPlusユーザー向け対応（40～50億円）、SaaSソリューションProPlus＋の本格展開による新規顧客の獲得（10～20億円）

■ **新リース会計の市場規模縮小**
対象件数の減少、EXCEL等による新リース会計対応を行う企業の増加による市場規模（上振れ要素）の縮小

■ **社会インフラ企業に入り込む**
新リース会計を機に新規顧客を獲得（3件以上）

経常利益

3,350 百万円

進捗率 **62.1** %

過去最高

■ **無償バージョンアップ**
保守契約で無償バージョンアップオプションを持つユーザーの対応が集中することが予想される

■ **先行投資の強化**
新リース会計後の需要獲得に向けた先行投資（製品開発･DX･人財採用等）を強化

■ **一時的な生産性低下リスク**
新リース会計対応案件の集中による一時的な生産性の低下リスク

当期純利益

2,350 百万円

進捗率 **60.8** %

過去最高

■ **３期連続過去最高益**
中期経営計画「Be Hybrid 2028」の拡張期突入・新リース会計対応の本格化を背景に３期連続の過去最高益を狙う

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

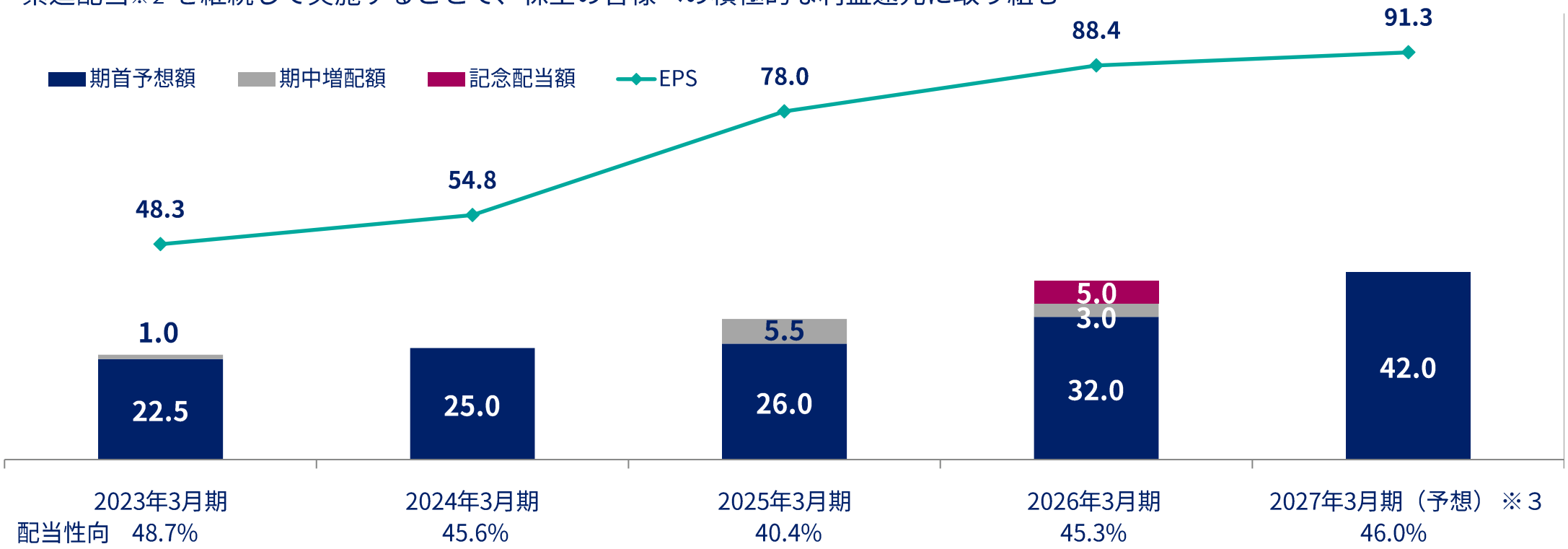
Forecast dividends per share for FY2027 (ending in March)

2027年3月期　1株当たり配当予想 ※1

1株当たり配当予想に変更なし(今後の業績動向を踏まえ、必要に応じて見直してまいります)

配当方針

持続的成長のための先行投資を推進し、収益力および資本効率の向上を図るとともに、
累進配当※2 を継続して実施することで、株主の皆様への積極的な利益還元に取り組む



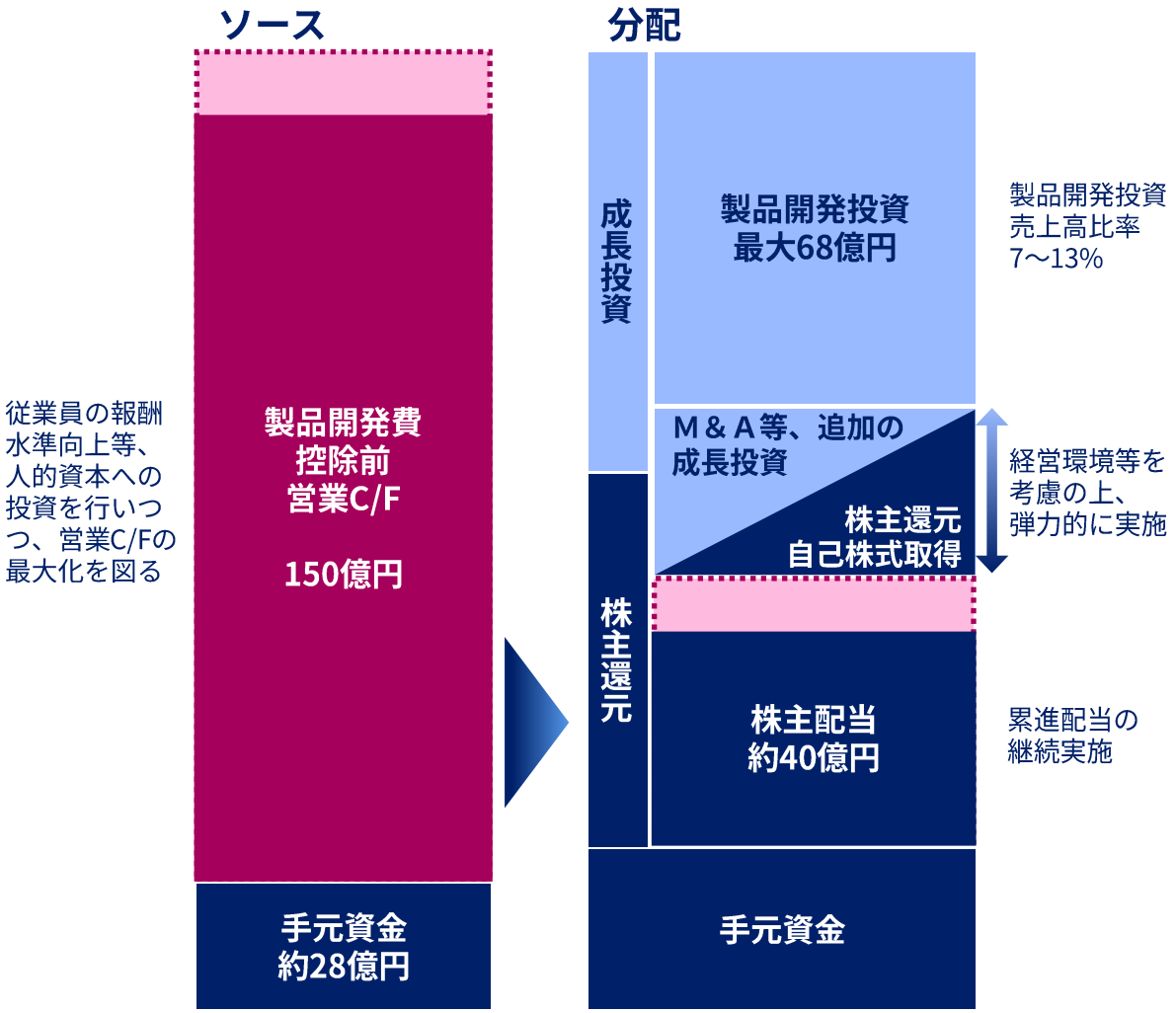
※1 ：2025年10月1日付で実施した株式分割（1株につき2株）を考慮し、過去の数値についても遡及して算出
※2 ： 原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行うこと
※3 ： 2027年3月期の配当性向（予想）は、2026年3月末時点の株式数に基づき算定

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Cash Allocation

キャッシュ・アロケーション（2025年3月期～2029年3月期）

ハイブリッドモデルの本格展開により、稼ぐ力を高め、収益基盤をより強固なものにするとともに、
積極的な成長投資（製品開発投資・インオーガニックな成長投資）と株主還元を行い、更なる好循環を創出する



利益は当初の5か年計画を上回って推移していることから、
営業C/F・株主還元も上振れとなる見込み

		25/3期-26/3期(実績)	27/3期(計画)	累計	5か年計画	計画進捗率
ソース	手元資金(期首)	28.3	38.1	―	―	―
	製品開発費控除前営業C/F	51.9	35.0	86.9	150.0	57.9%
分配	製品開発投資	▲19.3	▲12.6	▲31.9	▲68.0	46.9%
	M&A、業務提携等投資	▲1.4	▲3.7＋α	▲5.1＋α	―	―
	株主配当	▲13.9	▲10.3	▲24.2	▲40.0	60.5%

※製品開発費控除前営業CF＝営業CF＋（研究開発費＋製品修繕維持費）
※製品開発投資＝研究開発費＋製品修繕維持費＋無形固定資産
※株主配当＝前期利益処分の金額

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Stock price and EPS / PER

株価 と EPS / PER

利益成長に加え、市場評価(PER)の向上により株価も上昇
ハイブリッドモデルの展開により、利益成長を加速させ、市場評価を高め、企業価値の向上を図る

株価　＝　利益成長　×　市場評価の上昇

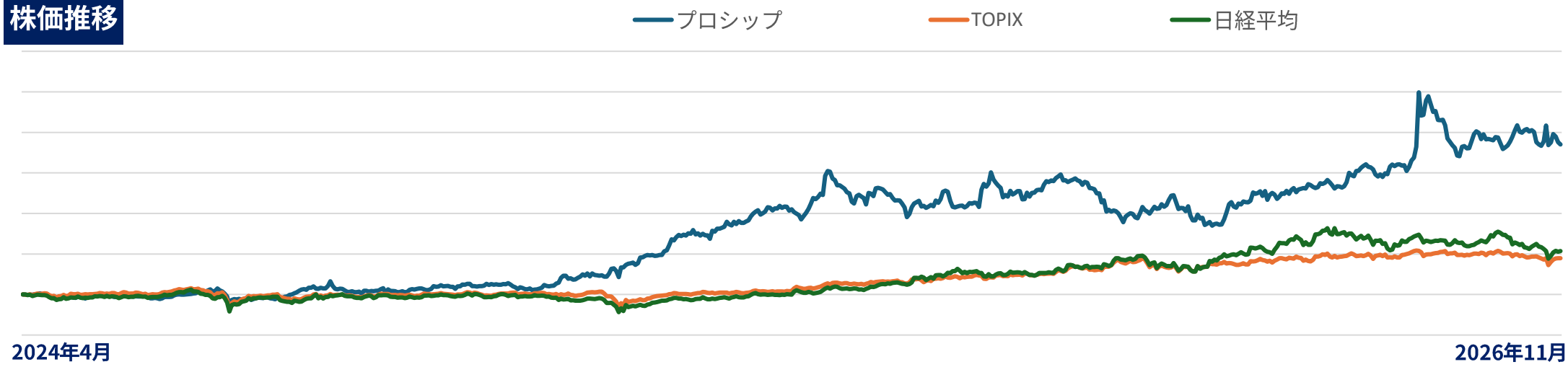
（中長期計画開始前後の比較）

株価　約3.46倍　≒　EPS　約1.66倍　×　PER　約2.08倍　※24年3月末⇒27年3月期計画

	24/3期末 (A)	25/3期末	26/3期末	27/3期(計画) (B)		増減率 (B) ÷ (A)
株価	727.5円	875円	1,372円	2,520円※	※年初来高値(8/24)	約3.46倍
EPS（1株当たり純利益）	54.83円	78.03円	88.35円	91.27円※	※現在の業績予想	約1.66倍
PER（株価収益率）	13.27倍	11.21倍	15.53倍	27.61倍※	※上記株価の場合	約2.08倍

※株式分割考慮後

株価推移



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

03 | 新リース会計基準について

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Overview of the New Lease Accounting Standard

新リース会計基準とは

現在、日本の会計基準は国際的なルールとの整合性を図るべく改定が進められています。なかでも大きな焦点となっているのが、2027年4月1日以後開始する事業年度から強制適用される「新リース会計基準」です。本基準が日本企業に与える主な影響は以下の通りです。

① B/Sの肥大化

これまでオフバランス処理されていたオペレーティング・リース（不動産賃貸借契約など）を含め、
原則すべてのリース契約が「使用権資産」および
「リース負債」として貸借対照表に計上されます。

② P/Lの構造変化

使用権資産を計上するリースでは、賃借料に代わり減価償却費と利息を計上します。利息法の適用によりリース期間の初期ほど支払利息が大きくなるため、費用が前倒しで計上される効果が生じます。

③ 主要指標の変動

B/Sの両建てで資産・負債が増加するため、ROA（総資産利益率）や自己資本比率は低下します。
一方で、賃借料が減価償却費等に振り替わるため、営業利益やEBITDAは押し上げられる傾向にあります。

④ 対象契約の把握と管理

本社だけでなく、支店やグループ子会社に散在している多種多様な契約情報の収集・集約が必要となり、
現場部門を巻き込んだ多大な業務負荷が発生します。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Our Mission

我々の使命（～2027年度）

我々プロシップの Speciality で「新リース会計対応」における日本企業の課題を解決する

固定資産管理およびリース管理において、日経平均構成企業や各業種のリーディングカンパニーの「およそ2社に1社」という高い採用実績を有する当社は、日本企業の円滑な新リース会計対応に貢献することが我々プロシップの使命だと考えています。

IFRS16号（リース）での100社を超える対応実績など、これまで蓄積してきた高い専門性で日本企業の円滑な新リース会計対応に貢献してまいります。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Activities to Date

これまでの活動

ユーザー企業の声を代弁したASBJへのコメント提出や実態調査、累計2万人以上が参加したセミナーなど、
日本企業の円滑な新リース会計基準の適用に貢献すべく、システム対応に留まらないプロシップだからこそできる活動を展開

2023年4月以前
- 100社超のIFRS16号（リース）に対応
- 新リース会計基準関連セミナーの実施

2023年5月
【ASBJが「リースに関する会計基準(案)」等を公表】
- 新リース会計影響額試算ソリューション提供開始
- 公開草案についてASBJへコメント提出

2023年9月
- 特設サイト「よくわかる！新リース会計基準ガイド」刷新
- 新リース会計基準関連セミナー　参加者累計1万名突破

2023年11月
- 有限責任監査法人トーマツ様とリース会計基準の改正に向けた協業開始

2024年2月
- 新リース会計基準に関する調査（第1回）を公表

2024年8月
- 新リース会計基準に関する調査（第2回）を公表

2024年9月
【ASBJが「リースに関する会計基準」等を公表】
- 新リース会計基準 目的別オンラインセミナー開始
- 新リース会計基準適用に向けたベストプラクティスの提供

2024年10月
- 不動産リースに関する調査票の無料提供開始

2024年12月
- 新リース会計基準に関する調査（第3回）を公表
- 新リース会計基準対応SaaSソリューション「ProPlus+」リリース

2025年2月
- 実質リースに関する調査票の提供開始

2025年5月
- 新リース会計基準に関する調査（第4回）を公表
- 新リース会計基準の「方針整理支援コンテンツ」の提供開始

2025年9月
- 新リース会計基準関連セミナー　参加者累計2万名突破

2025年10月
- 新リース会計基準に関する調査（第5回）を公表
- 新リース会計基準対応版「ProPlus」をリリース

2025年11月
- 社会貢献活動「未来応援プロジェクト 新リース会計対応チャレンジ1100」始動

2026年2月
- Pro-Shipユーザー会 研究会にて先行企業の事例を共有

2026年4月
- 新リース会計基準に関する調査（第6回）を公表

2026年5月
- ファーストアカウンティング社と新リース会計AIソリューションを提供開始

2026年6月
- 「ProPlus＋」リリースから1年半で導入企業数1,000社突破

2026年7月
- 新リース会計基準に関する調査（第7回）を公表

2026年8月
- アズビル株式会社様における新リース会計基準早期適用実績を公表

2026年9月
- ＴＤＫ株式会社様における新リース会計基準早期適用実績を公表

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

- 社会貢献活動 -

ProShip 未来応援プロジェクト ～ 新リース会計対応チャレンジ1100

本プロジェクトは、当社の事業活動が社会貢献に直結する仕組み（Cause Related Marketing）を導入するものです。企業の新リース会計対応における課題解決に貢献するとともに、社会価値の創造を目指す取り組みです。具体的には、1,100社の新リース会計対応に貢献することを目標とし、対象案件を1社受注するごとに1万円を積み立て、総額1,100万円を日本赤十字社に寄付することを目指すものです。そして、複数の企業に採用事例を通じて、本取り組みにご賛同いただいております。

■ 採用事例掲載企業

#01　大東建託株式会社
#02　ヤマハ株式会社
#03　株式会社SUBARU
#04　JR西日本グループ
#05　東洋紡株式会社
#06　京阪ホールディングス株式会社
#07　トヨタ輸送株式会社
#08　旭化成株式会社
#09　株式会社マルハン
#10　三菱地所株式会社
#11　アズビル株式会社
#12　株式会社村田製作所
#13　サミット株式会社
#14　森永製菓株式会社
#15　ロジスティード株式会社
#16　日本ハム株式会社
#17　TDK株式会社
#18　株式会社淺沼組
#19　株式会社ヤクルト本社
#20　カシオ計算機株式会社
#21　株式会社デンソー
#22　株式会社イズミ

Speciality for Customer
Pro-Ship
Incorporated
Pro Plus

未来応援
新リース会計対応チャレンジ1100

名　　称	ProShip 未来応援プロジェクト ～ 新リース会計対応チャレンジ1100 ～
期　　間	～2027年12月31日
目　　標	新リース会計基準対応における1,100社の課題解決
活動内容	対象案件※を１社受注するごとに１万円を積み立て、総額1,100万円の寄付を目指す
寄　付　先	日本赤十字社
寄付実施時期	2028年3月予定

※当社のコアターゲットとなる年商1,000億円以上の企業における新リース会計対応案件

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

After the Adoption of the New Lease Accounting Standard

アフター・新リース

新リース会計対応後も事業機会を捉えて、さらに大きな飛躍をねらう

新リース会計対応は、3月決算以外の企業・期中導入企業の需要が2027年度以降も継続



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

04 | プロシップについて

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Philosophy

基本理念

Speciality for Customer

高い専門性で顧客・社会に貢献する

我々にしかできない仕事をする

情報システム＆サービスの特定領域で、プロフェッショナルとして最強のSpecialityをグローバル市場で展開する。より多くの顧客の企業力・競争力向上に貢献し、グローバル高度情報化社会の普及発展に参画し、企業の社会的責任を果たしていく。組織として高い透明性、ルール性、統治性があり、その活動は、徹底した基本をベースに、常に独創性があり、自己責任であり、かつ迅速を旨とし、さらに参画者の自己実現に寄与する。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Vision / Purpose

ビジョン

世界で最も優れた固定資産管理ソリューションを提供する

モノの価値・活用度を高め、企業が持つ潜在能力を解き放つ

我々プロシップが目指すのは単なるシェアNo.1ではなく、唯一無二の価値を提供すること。

固定資産台帳にある資産の履歴、会計や税務の数値データ。それらと工場や店舗にある「実際のモノ」を結びつける。「会計」と「現場」をつなぎ、これまで見えなかった経営課題を可視化する。

経理部門の業務効率化にとどまらず、現場の意思決定を支え、経営の質そのものを向上させる。 会計システムの枠を超え、モノの管理を通じて企業の未来を拓く「マネジメント・プラットフォーム」へと進化する。

我々プロシップは、モノを基軸とした新たな価値創造に挑戦する。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Corporate Culture Model

組織文化モデル

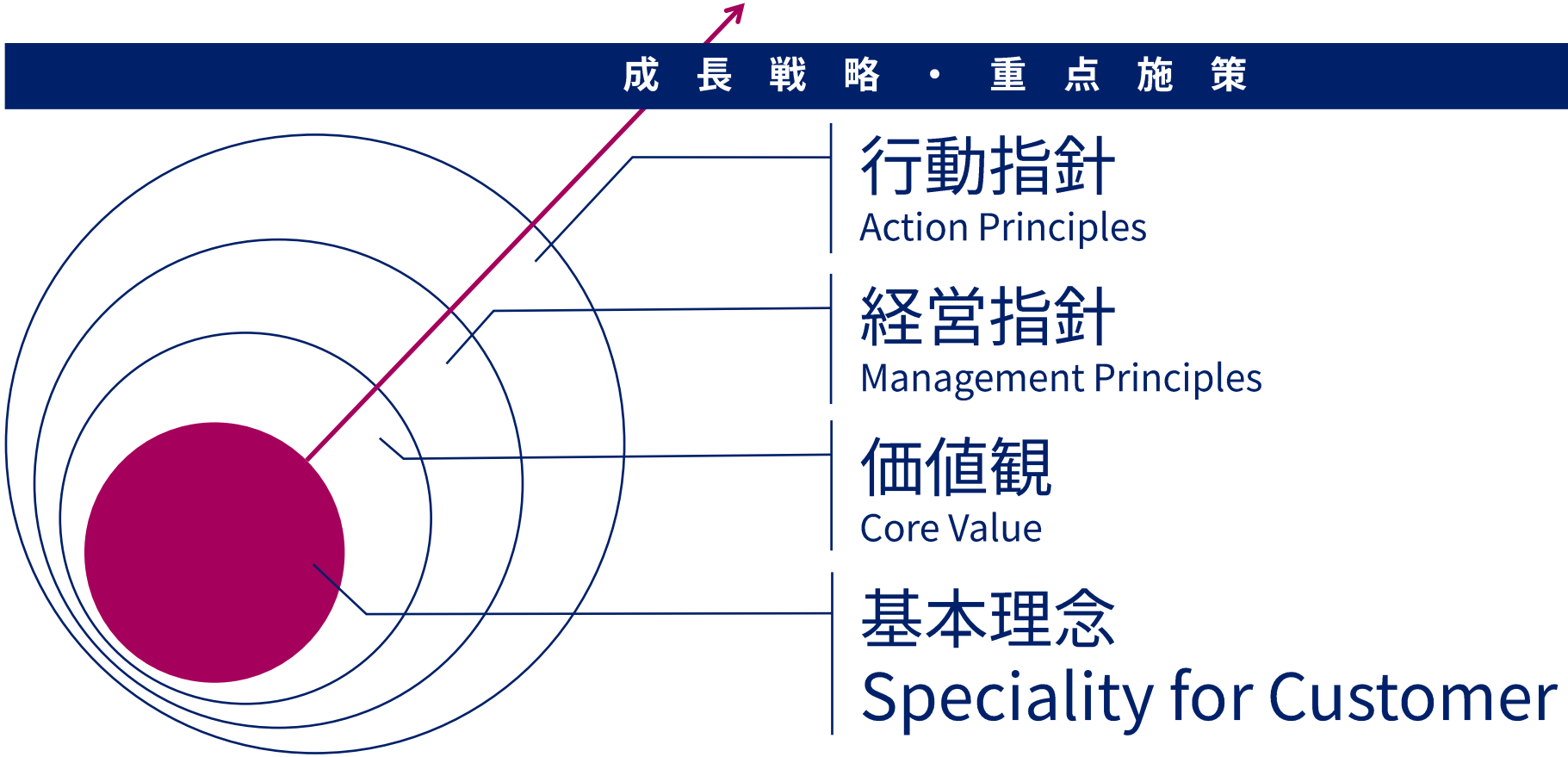
Vision / Purpose

世界で最も優れた固定資産管理ソリューションを提供する

Mission （～2027年度）

我々プロシップのSpecialityで「新リース会計対応」における日本企業の課題を解決する！

成　長　戦　略　・　重　点　施　策



行動指針
Action Principles

経営指針
Management Principles

価値観
Core Value

基本理念
Speciality for Customer

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Who’s using the ProPlus series: Targeting

ProPlus シリーズ の導入実績

大企業・上場企業に向けた専門性の高い製品・サービス

日経平均構成企業におけるシェア

129 / 225社

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Who’s using the ProPlus series: Targeting

ProPlus シリーズ の導入実績

大企業・上場企業に向けた専門性の高い製品・サービス

業種別売上高ランキング上位企業におけるシェア **50** **%超**

業種別売上高上位企業におけるProPlus導入社数

業種	ProPlus導入社数
建設	5社 ／ 10社
食料品	8社 ／ 10社
繊維	6社 ／ 10社
化学	4社 ／ 10社
医薬品	3社 ／ 10社
石油・石炭	3社 ／ 5社
ゴム製品	4社 ／ 10社
ガラス・土石製品	3社 ／ 10社
鉄鋼	4社 ／ 10社
非鉄金属	6社 ／ 10社
金属製品	3社 ／ 10社
機械	3社 ／ 10社

業種	ProPlus導入社数
電気機器	5社 ／ 10社
輸送用機器	6社 ／ 10社
精密機器	4社 ／ 10社
小売業	6社 ／ 10社
銀行	3社 ／ 5社
証券・商品先物	2社 ／ 5社
保険	3社 ／ 5社
不動産	7社 ／ 10社
海運	3社 ／ 5社
倉庫・運輸	8社 ／ 10社
通信	6社 ／ 10社
電気・ガス	3社 ／ 10社

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Who’s using the ProPlus series: Targeting

ProPlus シリーズ の導入実績

大企業・上場企業に向けた専門性の高い製品・サービス

ProPlusシリーズの導入企業グループ **6000社超**

証券取引所の定める **33** **業種すべて**に導入実績あり

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Used by leading companies in every industry

導入実績 - 各業界のリーディングカンパニーを中心に累計6,000社超の実績 -

小売業 飲食業	STARBUCKS, DAISO, EDION, 松屋, G&O
卸売 商社 百貨店	三菱商事, JFR J. FRONT RETAILING, KOMERI ビックA, FOOD & LIFE COMPANIES, Takashimaya
食品 飲料	おいしさを笑顔に KIRIN, SAPPORO, AJINOMOTO, ニチレイ, Nipponham Group
医薬品 化学	AsahiKASEI, TOWA 東和薬品, TOSOH 東ソー株式会社
不動産	さあ、街から未来をかえよう 三井不動産 MITSUI FUDOSAN, 三菱地所, HULIC, 大東建託
建設 住宅設備	SHIMIZU CORPORATION 清水建設, 三和シャッター, NSG GROUP, TOTO
電機 精密機器	Canon, EPSON EXCEED YOUR VISION, YAMAHA, TDK, CITIZEN
機械	EBARA, Sodick, NTN, 熱・水・環境のベストパートナー MIURA
鉄鋼 金属	KOBELCO, 古河電工, TOYO SEIKAN GROUP, Fujikura
繊維 アパレル	NISSHINBO, TOYOBO, GUNZE, ADASTRIA
運輸 インフラ	JR西日本, こころまち つくろう KEIHAN 京阪ホールディングス, K LINE 川崎汽船株式会社, SUBARU
IT サービス 他	BIPROGY, DeNA, YONEX, MARUHAN

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Products in the ProPlus series

ProPlus シリーズラインナップ

■ 固定資産システム

あらゆる業種・業態の企業にマッチする固定資産管理ノウハウを豊富に搭載

■ 建設仮勘定サブシステム

建仮計上から精算までの煩雑な業務を効率化し、
きめ細かな建仮管理を実現

■ 賃貸借契約管理システム

借り手側および転貸時の貸し手側の賃貸借契約／建設協力金／物件情報の一元管理により、業務効率化を実現

■ 工事精算システム　*Smart*

AI-OCRの技術を活用し、大量の紙文書や電子文書をProPlusのインプット情報に変換、会計までの一連の業務効率化を実現

■ リース会計影響額試算ソリューション

複数パターンでの試算が行え、正確で品質の高い影響額算出が可能。影響額の試算業務にかかる工数削減を実現

■ 新リース会計基準対応 ProPlus＋（SaaS）

新会計基準に対応したSaaS型リース資産管理ソリューション

ProPlus+

■ リース資産管理システム

契約/物件情報管理、支払管理、開示資料作成などリース管理業務全般を効率化

■ 棚卸サブシステム

棚卸計画から実施まで一貫した管理が可能。固定資産システムとのシームレスな連携を実現

■ 土地管理サブシステム

固定資産とは別台帳(紙、Excel、Accessなど)で管理されることが多い土地（事業用、販売用）の情報を、ProPlusで一元管理

■ 現物管理システム（SaaS）ProPlus

スマートデバイスによるバーコード読み取り、画像による突合により棚卸作業を効率化。画像データの撮影・台帳転記機能、柔軟なレポート機能も搭載

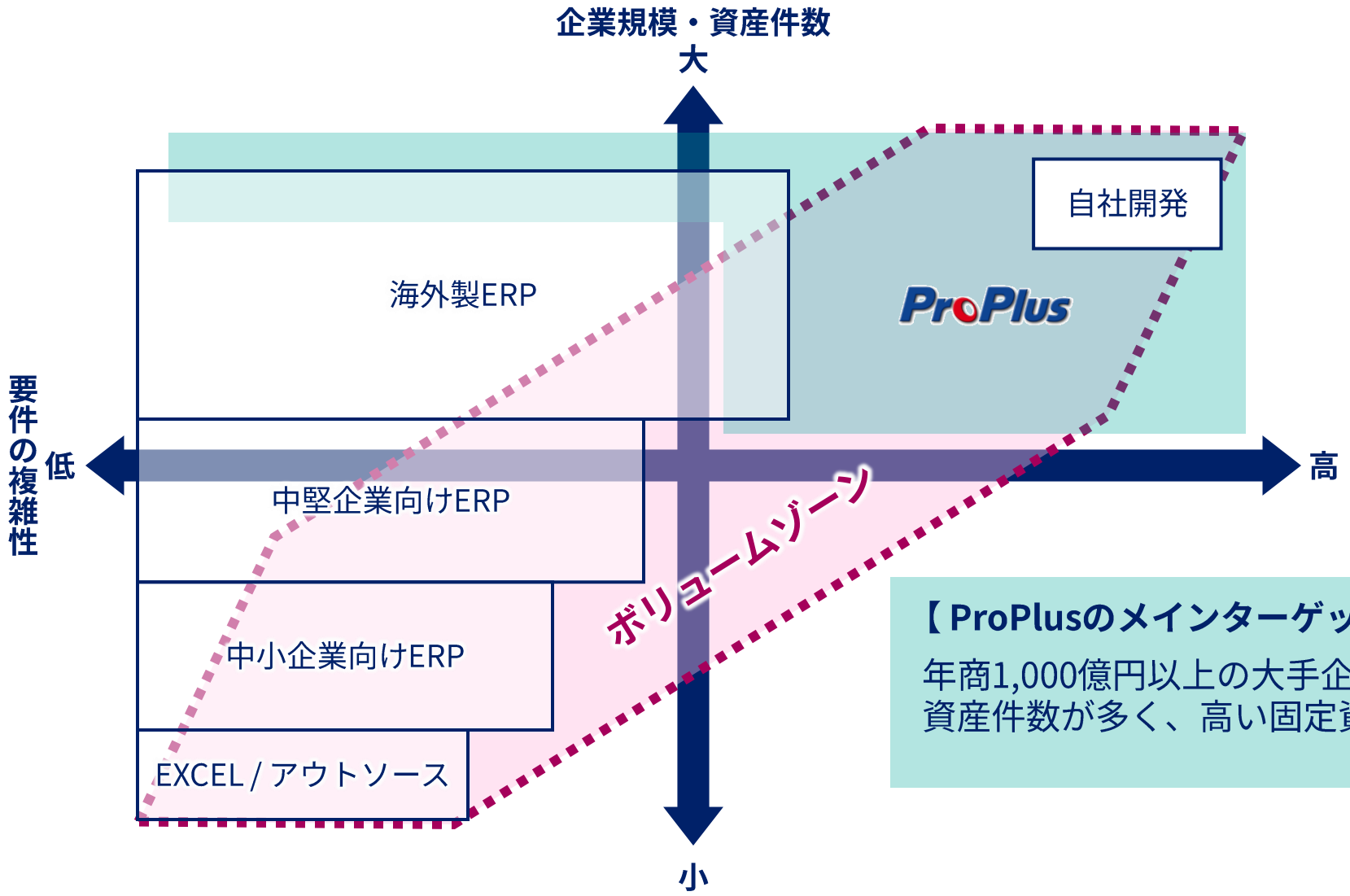
■ ProPlus for Electric Power Company

電気事業会計規則に標準対応した電力会社向け固定資産管理ソリューション

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

“Best of Breed” : Unique Positioning

独自のポジショニング　–　Best of Breed



【 ProPlusのメインターゲット 】

年商1,000億円以上の大手企業・上場企業
資産件数が多く、高い固定資産管理ニーズを有する

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Requirements for Enterprise Fixed Asset Management Systems

エンタープライズ向け固定資産管理システムに求められる要件

01 ｜ 償却資産税 等の税務対応

02 ｜ 迅速な制度改正対応

03 ｜ 高度な管理会計などの複数帳簿対応

04 ｜ 減価償却という時系列での整合性

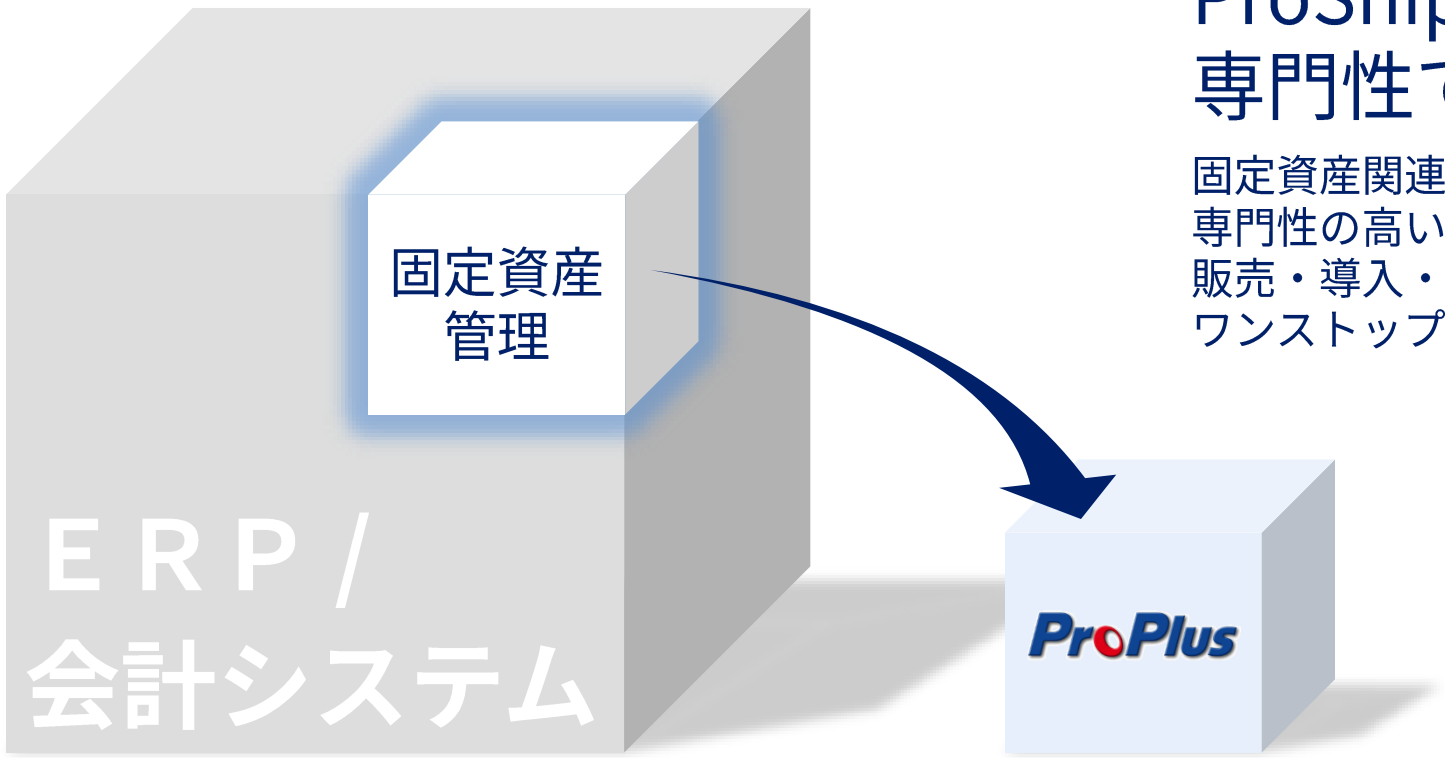
05 ｜ 現物という実際のモノとの整合性

06 ｜ 大量件数対応

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

“Best of Breed” : Unique Positioning

独自のポジショニング　–　Best of Breed



ERPではない。
会計システムではない。

ProShipだからこその
専門性で貢献する。

固定資産関連領域に特化し、
専門性の高い製品・サービスを自社で開発し、
販売・導入・サポートまでの
ワンストップソリューションを提供。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

05 | TEAM構想

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Vision / Purpose

ビジョン

世界で最も優れた固定資産管理ソリューションを提供する

モノの価値・活用度を高め、企業が持つ潜在能力を解き放つ

我々プロシップが目指すのは単なるシェアNo.1ではなく、唯一無二の価値を提供すること。

固定資産台帳にある資産の履歴、会計や税務の数値データ。それらと工場や店舗にある「実際のモノ」を結びつける。「会計」と「現場」をつなぎ、これまで見えなかった経営課題を可視化する。

経理部門の業務効率化にとどまらず、現場の意思決定を支え、経営の質そのものを向上させる。 会計システムの枠を超え、モノの管理を通じて企業の未来を拓く「マネジメント・プラットフォーム」へと進化する。

我々プロシップは、モノを基軸とした新たな価値創造に挑戦する。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Total Enterprise Asset Management Concept

TEAM構想 （Total Enterprise Asset Management）

モノを中心としたマネジメントプラットフォーム

同じ機械や建物でありながら、複数のシステムに泣き別れている情報を一元的に管理する。
現場のモノとProPlusが持つ会計や税務の数値データを結び付ける。
より的確な意思決定・より高度なマネジメントを支えるモノを中心としたマネジメントプラットフォームへの進化を通じて、
「ProPlus」というソリューションが提供する価値そのものを高める。

	現在地		モノを中心としたマネジメントプラットフォーム
場所	本社・オフィス	拡張	現場（工場・店舗…）
部門	経理財務部門		販売・製造・総務等のモノを実際に利用・管理する部門
領域	会計・税務		設備管理、不動産管理、現物管理、CO2排出量管理… 等

↓ ↓

会計や税務の **数値** データ ＋ 工場や店舗が持つ **現物・実態** データ

↓

より的確な意思決定・より高度なマネジメントを支える

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Global Expansion

海外展開



36 の国と地域

315 の法人に導入　（ 2026年11月時点 ）

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

06 ｜ ＡＩ戦略

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

The Future Realized by the TEAM Concept

TEAM構想がもたらす未来

	現在地		モノを中心としたマネジメントプラットフォーム
場所	本社・オフィス	拡張	現場（工場・店舗…）
部門	経理財務部門		販売・製造・総務等のモノを実際に利用・管理する部門
領域	会計・税務		設備管理、不動産管理、現物管理、CO2排出量管理… 等

↓ ↓

会計や税務の **数値** データ ＋ 工場や店舗が持つ **現物・実態** データ

↓

課題	**会計や経理のエキスパートではない人もProPlusを利用する**
対応	**自然言語で、会話するように、ProPlus を操作する（AI機能）** **人だけではなく、AIもProPlusを利用する**
価値	**より的確な意思決定・より高度なマネジメントを支える**

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Proship’s Competitive Advantages in the AI Era

AI時代におけるプロシップの強み

多くいただく質問	「他社はどうしてるの？」
↓	
プロシップの強み	この問いに答えられること
↓	
強みの源泉	6,000社の導入実績
↓	
進化	AI × 6,000社の導入実績
↓	
プロシップのAI戦略がもたらす価値	・ProPlusのAIがユーザーが知りたい「他社はどうしてるの？」に答える ・新任者への引継ぎが不十分でも前任者や他の人がどうしているのかをProPlusのAIが答える

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

07 | ハイブリッドモデル

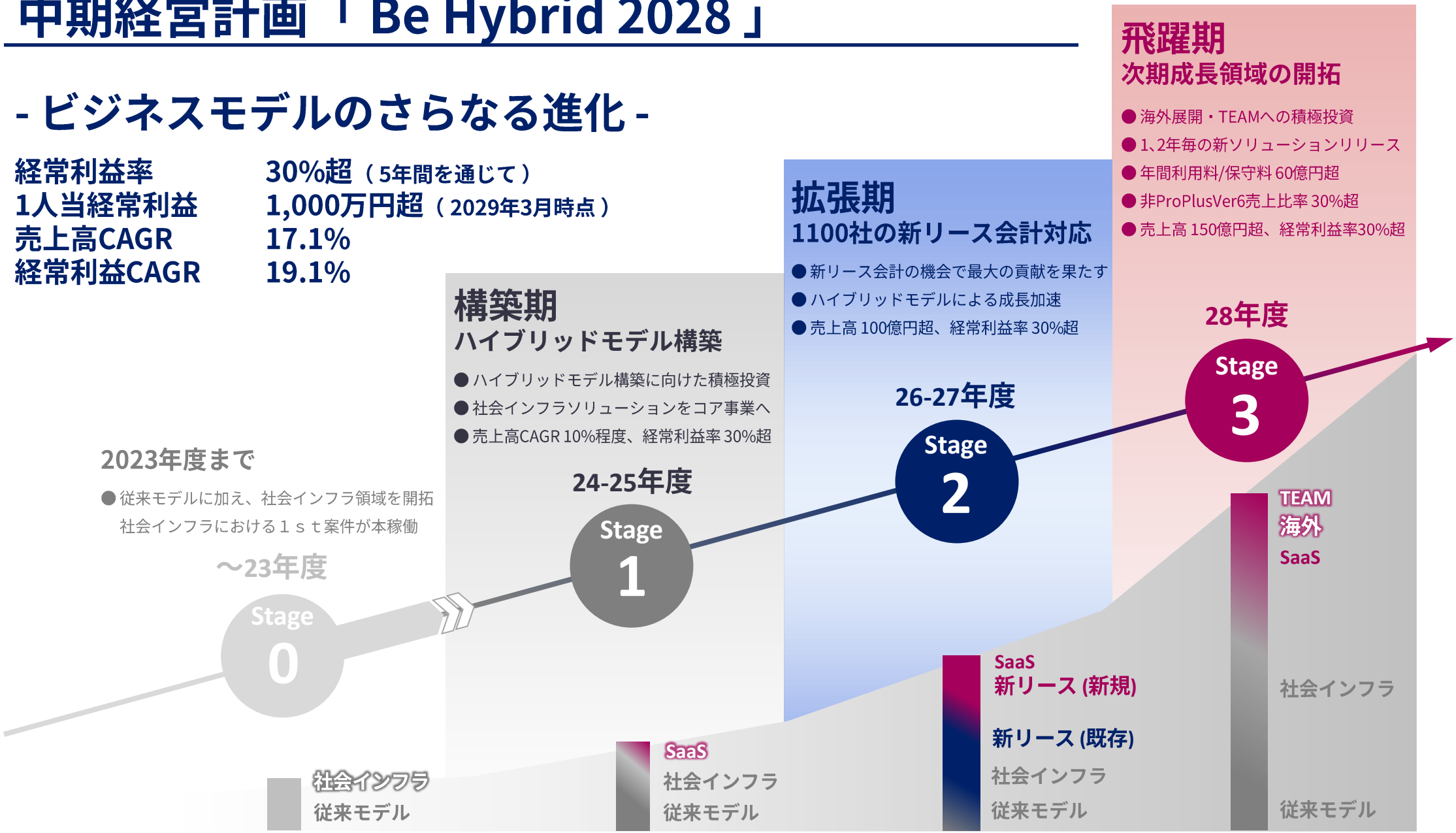
Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Medium Term Business Strategy Overview

中期経営計画「 Be Hybrid 2028 」

- ビジネスモデルのさらなる進化 -

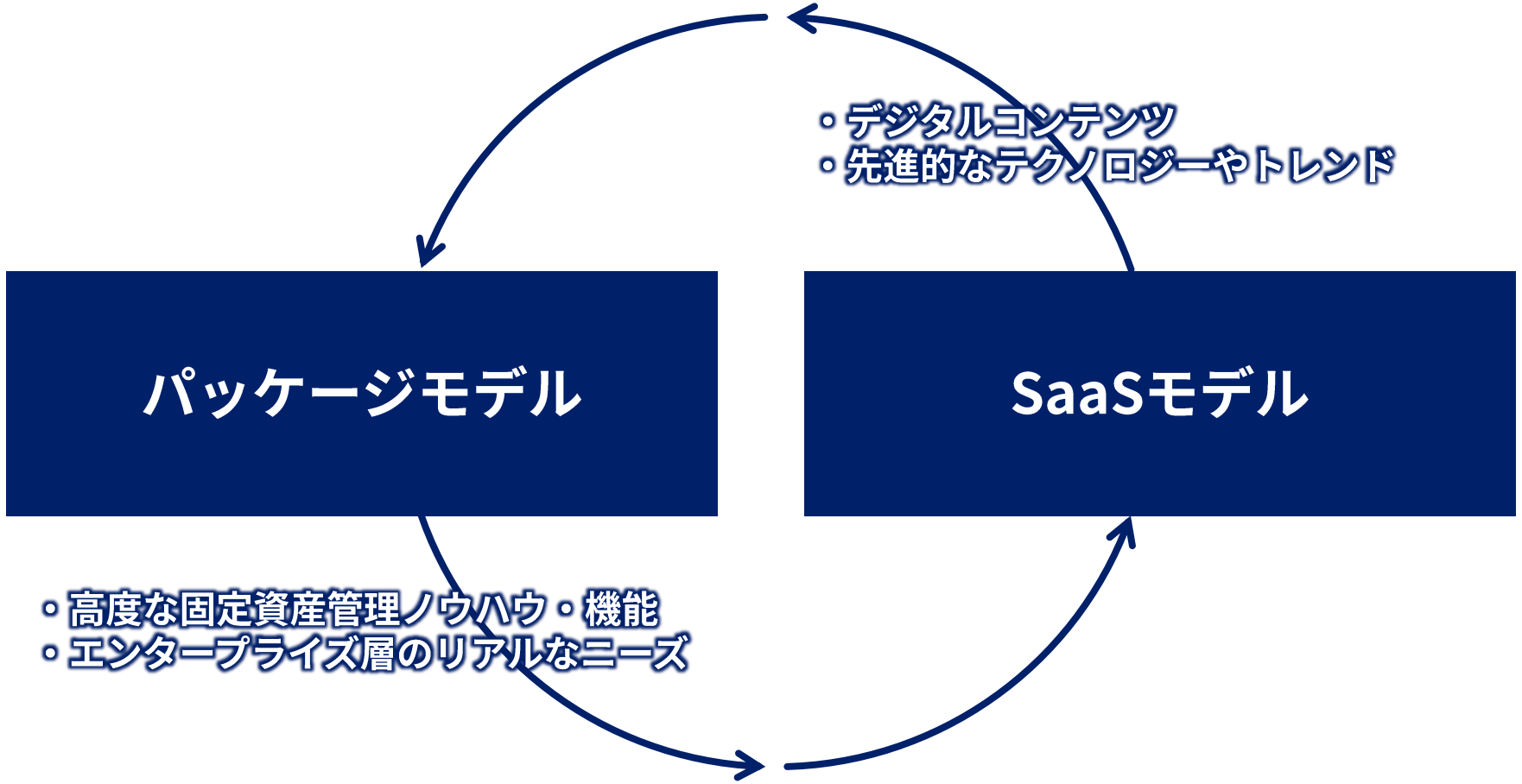
経常利益率	30%超（5年間を通じて）
1人当経常利益	1,000万円超（2029年3月時点）
売上高CAGR	17.1%
経常利益CAGR	19.1%



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

ハイブリッドモデルを構築する ー ビジネスモデルのさらなる進化

中期経営計画「Be Hybrid 2028」の「構築期」にあたる2025年3月期、2026年3月期の2年間にて、
従来のビジネスモデル「Best of Breed」の更なる進化を実現する次世代モデルを構築。
大企業特有の独自のニーズに応える「パッケージモデル」と、
導入スピードと拡張性に優れた「SaaSモデル」の二刀流となる「ハイブリッドモデル」の本格展開を2027年3月期より開始する。



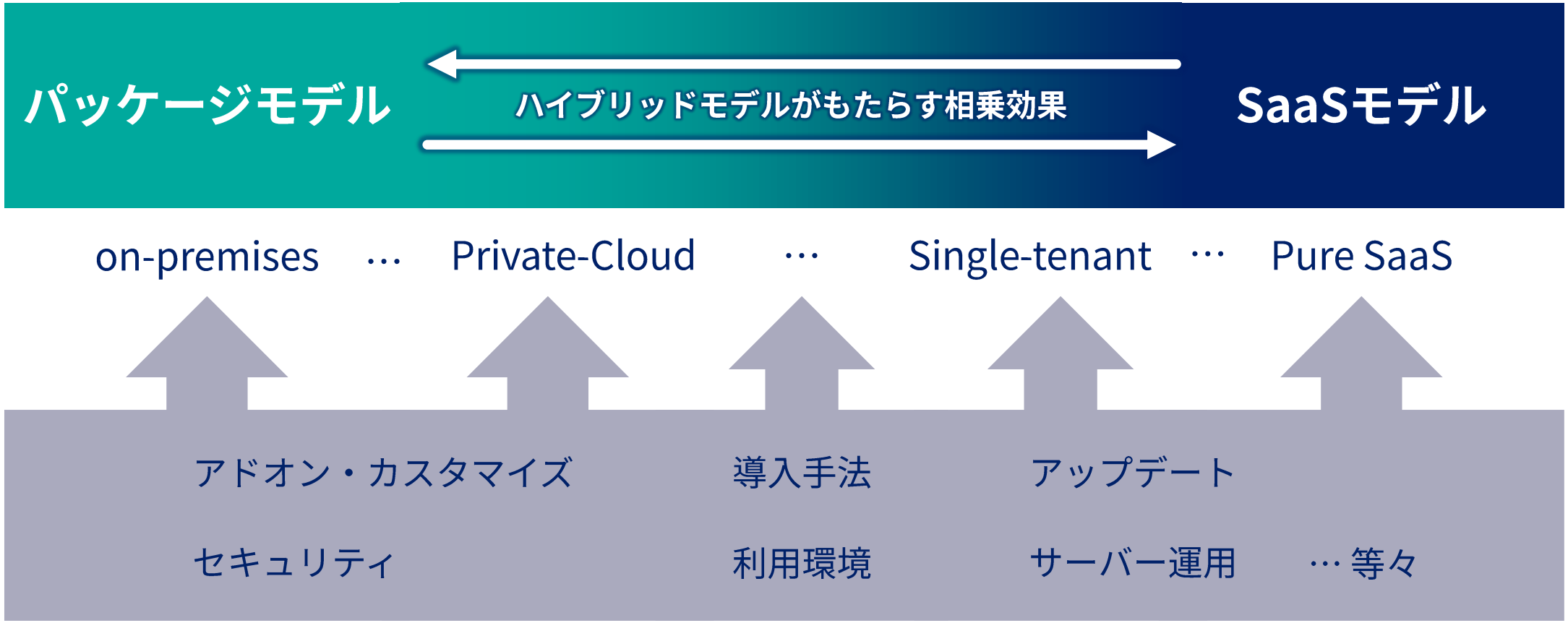
Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

The synergistic effect of the hybrid model

ハイブリッドモデルがもたらす相乗効果

その時代や環境に応じた最新のテクノロジーをユーザーに寄り添うかたちで提供する

SaaSで得たものをパッケージに還元し、パッケージで培った強みをSaaSに還元する。両者を進化させる仕組み。
お客様のニーズがSaaSか、パッケージかという二択ではない。
ハイブリッドモデルが生み出す相乗効果は、このSaaSとパッケージの間を埋めていくことができる可能性がある。



Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

株式会社プロシップ
2027年3月期 第2四半期決算説明資料

質疑応答

ご質問は画面下の『Q&A機能』にて、随時受け付けております。
お送りいただく際は「会社名・氏名」をご記載ください。

他の参加者には非公開に設定されており、運営にて質問内容のみを代読させていただきます。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

株式会社プロシップ
2027年3月期 第2四半期決算説明資料

質疑応答

ご質問の受付は、締め切らせていただきました。

多くのご質問をいただいた場合、全てにお答えできないことがございますが、
何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

Copyright© 2026 Pro-Ship Incorporated. All rights reserved.

Pro-Ship

Speciality for Customer

株式会社プロシップ （証券コード：3763　東証プライム市場）

2027年3月期 第2四半期決算説明資料

本資料に掲載されている情報のうち、今後の業績予想・見通しなどの将来に関する情報は
その時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであります。
従いまして、実際の業績等は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があります。
また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。